

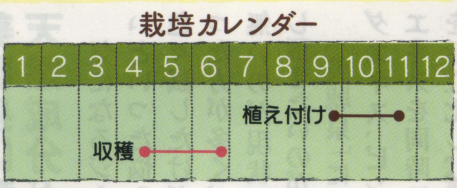
菜園くらぶ

監修/帖地 近行



用意するもの(1㎡当たり)

■ 苗4、5本 ■ 苦土石灰150g ■ 元肥
(完熟堆肥2kg、化成肥料150g(6握り)、過リン酸石灰50g(2握り)) ■ 追肥:1回目
(化成肥料30g(1握り強))、2回目(化成肥料20g(1握り弱)) ■ 敷きわらまたは黒マルチ、白寒冷紗または不織布



イチゴ

収穫まで
約7カ月!

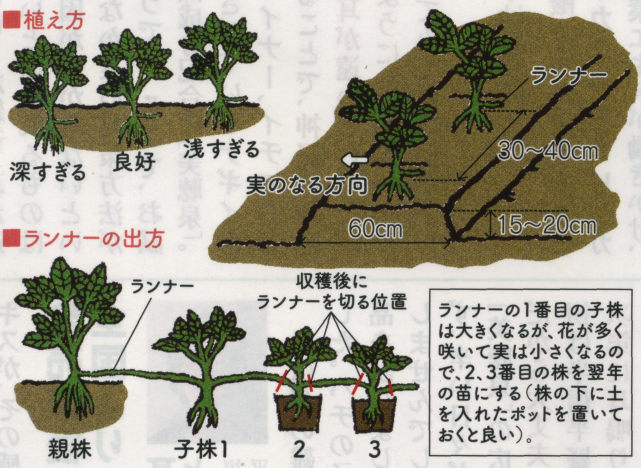
【バラ科・アメリカ原産】

いろいろな品種があり、大きさまや形、味ともそれぞれ違いがあります。プランターや鉢でも作ることができ、採れたての味は格別です。日当たりの良い場所を好みますが半日陰でも作れます。根が弱く、乾燥や肥料の害を受けやすいので注意。排水、保水性のいい場所を選び、排水の悪い所は畝を高くします。植え替えずに翌年も収穫できますが、果実が小さくなるので、収穫後に子株を切り離して育てておき、2年目の秋に親株として別の場所に植え付けるようにします。

栽培手順

① 植え付け

・ 植え付けの2〜3週間前までに苦土石灰を全面に散布してよく耕す。
・ 1週間後に元肥を施してよく耕し、幅60cm、高さ15〜20cmの畝を作る(二条植えにするときは幅を80〜90cmにする)。
・ さらに1週間後、本葉5、6枚の苗を株間30〜40cmに植え付ける。親株のランナー(ツル)の出ている反対側に実が付くので、ランナーの向きをそらえて植え付けるとよい。



・ 1回目の追肥は11月中旬ごろ、2回目は3月初めに株元から離して筋状に施し、軽く土をかぶせる。乾燥しているときは水やりを兼ねて液肥を与えると効果的。
・ 花が霜の害を受けないように白寒冷紗か不織布でトンネル掛けするとよい。
・ 2回目の追肥をしたらマルチングするか敷きわらを敷いておく。
・ 3月下旬になると気温が上がって根焼けを起こしやすいので、マルチの上を敷きわらを敷いておく。
・ マルチングをしないときは乾燥しやすいので水やり要注意。花が咲き始めるから収穫期までは特に注意。
・ 実が色づき始めると鳥の害を受けやすいので注意する。
・ 雨天が続くと病害が出やすいので、雨除けトンネルをかけるとうい。

③ 収穫

・ 花が咲いてから35〜40日ぐらいで実が赤く色づいたものから収穫する。
・ 傷みやすすいので丁寧扱い、朝のうちに収穫する。

② 管理

・ デリケートな野菜なので管理に注意する。

ポイント

- ・ 肥料のやり過ぎに注意。
- ・ 排水を良くする。
- ・ 乾燥させない。

